

日本学術会議主催学術フォーラム、第7回防災学術連携シンポジウム

「平成30年夏に連続発生した自然災害と学会調査報告」（仮案）

主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会
防災学術連携体（56学会）

日 時：平成31年3月
10時30分から17時30分

場 所：日本学術会議講堂

趣 旨：

平成30年の夏から秋にかけて、日本列島を自然災害が次々と襲った。平成30年6月18日大阪府北部地震が起こり、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）は広い範囲に同時多発的な大雨と土砂災害をもたらした。その後の記録的猛暑と連続して発生した台風、9月4日に上陸した台風21号は、百の観測点で強風記録を塗り替え、高潮と強風で関西国際空港を孤立させた。9月6日の北海道胆振東部地震は震度7を記録し、山地崩落や火力発電所の被災による北海道全域のブラックアウトを引き起こした。

防災・減災に関わる多くの学会と研究者は、今後の災害軽減を目的に積極的に被害調査を行っている。

防災学術連携体、56学会と日本学術会議は、これらの災害に対応して、ホームページに特設ページを設け、緊急集会、市民への緊急メッセージ、緊急報告会を開催し、各学会の情報を発信すると共に学会間の情報共有を図ってきた。

本報告会では、主に平成30年の夏に連続したこれらの自然災害に焦点を当て、各学会の調査報告を行う。さらに、今後、連鎖する気象災害にどう備えていけば良いのか、地震と気象災害の複合災害にどう備えれば良いのかを議論する。

次第：

挨拶

趣旨説明

- セッション1 気象災害の連鎖、観測とそのメカニズム
- セッション2 西日本豪雨災害 被害と対策
- セッション3 台風21号、連続発生した台風
- セッション4 大阪府北部地震、北海道胆振東部地震
- セッション5 災害情報伝達と避難体制
- セッション6 連続する災害と復旧救援活動
- セッション7 連続する自然災害への備え

16:00 パネルディスカッション「連続する自然災害にどう備えるか」

17:25 閉会挨拶

17:30 終了

*防災学術連携体の56学会および防災減災学術連携委員会委員から発表者を募集する。